

O1-007

「SomLic ペアレント・トレーニング」の子育て支援現場での普及に向けた取り組み

田中 真衣¹、鈴木 健史²

¹ 白梅学園大学 子ども学部

² 東京立正短期大学 (401361)

【背景と目的】

増え続ける子ども虐待予防のためにも、子育てしている家族を支援する必要がある。その支援の一つとしてペアレント・トレーニングがあり、少しずつ認知はされてきているが、実際普及しているとはいえない現状が続いている。そこで、ペアレント・トレーニングがより広く子育て支援の現場で開催されることを目指し、広く子育て支援領域において活用できる「SomLic ペアレント・トレーニング」を開発した。プログラムは、1回90分の全6回講座で、講義、グループワーク、ロールプレイ、記録、宿題、フィードバックの組み合わせで構成されている。本プログラムの効果測定と分析結果(田中・鈴木 2021)を踏まえ、次に子育て支援現場で広く普及されることを目的とし実践した。今回その普及に向けての取り組みの報告を発表する。

【方法】

はじめにファシリテーター養成講座プログラムを開発した。次に、開発された養成講座を実際にトライアルで開催した。受講後にアンケート調査を行い、養成講座の理解度及び受講しやすさ等を聞き、あげられた改善点を修正及び実施方法を検討して完成版として仕上げた。

【結果】

本取り組みの成果として下記3点を報告する。①ファシリテーター養成講座の完成：成果物として、ファシリテーターがプログラムを進行する上で必要なスクリプトと開催マニュアル、プログラム理解のための動画、広報用テンプレートを作成した。②ファシリテーターの養成：児童福祉現場経験がある専門職(保育士、幼稚園教諭、社会福祉士、保健師、看護師、小児科医)13名のファシリテーターが養成された。③受講者によるSomLic ペアレント・トレーニング実施へのつながり：受講後、受講生がファシリテーターとなり、職場で本プログラムが実施された。今後も全国どの自治体でもペアレント・トレーニングが開催されている状況を目指し、SomLic ペアレント・トレーニング養成研修を実施できるファシリテーターを養成し続けていく。

※田中真衣・鈴木健史(2021)「汎用性の高いペアレント・トレーニングの開発に向けた施行検証—プログラム効果測定と分析結果を踏まえて」白梅学園大学・白梅学園短期大学子ども学研究所研究年報 26:39-51.